

# 和歌山県誕生

# 150年

未来へと紡ぐ、伝統と誇り

記念式典

令和4年

3月21日

月祝

開演

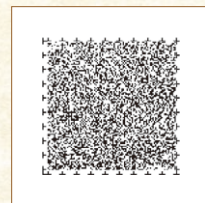
12:30

17時終了予定

会場

和歌山県民文化会館  
大ホール

 和歌山県



Uni-Voice

専用読み取り装置やスマホアプリを利用して、情報を「音声コード Uni-Voice」音声で聞くことができます。



# 式次第

司会 笠野 衣美

記念映像	「和歌山県のあゆみ」
和歌山県民歌	和歌山児童合唱団
式辞	和歌山県知事 仁坂 吉伸
祝辞	
記念講演	「和歌山の近代150年を問う」 東京大学先端科学技術研究センター フェロー 御厨 貴 「わが生地、わが聖地・熊野」 作家 辻原 登
未来へのメッセージ	和歌山県誕生150年記念作文コンクール最優秀賞 【小学生部門】 智辯学園和歌山小学校5年 神埜 佐奈 【中学生部門】 和歌山県立向陽中学校2年 岸本 彩乃 【高校生部門】 和歌山県立桐蔭高等学校1年 山本 愛奈
和歌山県文化表彰 受賞記念演奏	尺八奏者 辻本 好美 ピアニスト 中谷 政文

※出演者の氏名は、敬称略とさせていただきます

◎記念映像 和歌山県誕生から150年のあゆみを時系列で紹介します



この穴は何?

この穴は、表紙に表示してある「Uni-Voice」という二次元コードの位置を示すものです。Uni-Voiceとは、特定非営利活動法人日本視覚障がい情報普及支援協会(JAVIS)が開発した音声コードです。文書が読み取れない視覚ハンディや、失読症などの文字情報ハンディを持つ方が、専用の読み取り装置やスマートフォンアプリ(無料)を利用して文字と音声読み上げ情報を得ることができます。

## ごあいさつ



和歌山県知事

仁坂 吉伸

本日、ここに「和歌山県誕生150年記念式典」を挙げていただきましたところ、多数の皆様にご臨席を賜り、共に祝っていただけたことに、厚く御礼申し上げます。

「和歌山県」は、明治4年(1871年)7月の廃藩置県により設置された和歌山・田辺・新宮の3県が同年11月22日に統合されたことをもって誕生し、令和3年で150年の節目の年を迎えました。

歴史を辿りますと、幕末・維新の激動の時代に、和歌山藩が近代国家のモデルともいえるべき大胆な改革を行うと一気に時代は動き、廃藩置県という明治維新时期における我が国最大の行政改革に繋がりました。以降この150年間、近代国家の創設期、戦争と戦後復興期、高度経済成長期、成熟の時代と、時世がめまぐるしく変化する中でも、和歌山県は、多くの先人たちの知恵と勇気、努力によって常に前進してまいりました。例えば、明治政府最大の懸案であった不平等条約の改正に成功した陸奥宗光、遭難したトルコ軍艦の乗組員を命がけで助けた串本の人々、日本人女性初の金メダルを獲得した前畑秀子、日本人最初のノーベル賞受賞により敗戦に沈む国民に勇気を与えた湯川秀樹、日本の誇るものづくり産業を牽引した松下幸之助など、いつの時代にも我が国や郷土、他者のために尽くした人々がいました。そして、何より県民一人一人が、よりよい社会をつくるために着実に歩んできた結果、こうして和歌山県が150年を迎えることができたことは言うまでもありません。

本日の式典には、名だたる講師の方々をお招きしており、県の歩んできた歴史や偉大な先人たちを育んだ風土などについてお話しいたします。また、和歌山が生んだ新進気鋭の音楽家による演奏や未来を担う子どもたちからのメッセージの朗読など、改めてふるさとへの愛着と誇り、輝く未来への希望を感じていただけるような式典内容となっております。

御来場の皆様におかれましては、本記念式典を大いに楽しんでいただき、是非この機会にふるさとの歴史に親んでいただきたいと思います。そして、先人たちから受け継いできたこの素晴らしい文化と伝統を、次の時代へと更に発展させ、県民みんなで今後の和歌山県を盛り上げていきましょう。

結びに、本記念式典の開催に格別の御支援、御協力を賜りました関係者の皆様にご心から感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

# 和歌山の近代150年を問う



御厨 貴(みくりや たかし)氏

東京大学法学部卒業。東京都立大学教授、政策研究大学院大学教授、東京大学先端科学技術研究センター教授、放送大学教授などを歴任し、現在、東京大学先端科学技術研究センターフェロー。東京大学、東京都立大学名誉教授。サントリーホールディングス株式会社取締役。サントリー文化財団理事。内閣府公文書管理委員会委員長、東日本大震災復興構想会議議長代理、復興庁復興推進委員会委員長代理、天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議議長代理など数々の要職も務めた。また、平成19年4月～平成30年9月『時事放談』のキャスターを務めるなど、メディアでも活躍。

# わが生地、わが聖地・熊野



辻原 登(つじはら のぼる)氏

和歌山県印南町出身。平成2年『村の名前』で芥川賞、平成11年『翔べ麒麟』で読売文学賞、平成12年『遊動亭円木』で谷崎潤一郎賞、平成17年『枯葉の中の青い炎』で川端康成文学賞、平成18年『花はさくら木』で大佛次郎賞、平成22年『許されざる者』で毎日芸術賞、平成23年『闇の奥』で芸術選奨文部科学大臣賞、平成24年『韃靼の馬』で司馬遼太郎賞。他に『家族写真』『発熱』『冬の旅』『籠の鸚鵡』『朧どもえ』等著書多数。平成13年度和歌山県文化賞受賞。日本芸術院会員、神奈川県立神奈川近代文学館館長。

《プログラム》

## 1. 千尋の道

作曲／辻本 好美  
演奏／辻本 好美

## 2. 故郷想うた

作曲／辻本 好美  
演奏／辻本 好美

## 3. この道

作曲／山田 耕筈  
演奏／辻本 好美

## 4. 「ドン・ジョヴァンニ」の回想

作曲／フランツ・リスト  
演奏／中谷 政文

## 5. ヴァイオリンソナタ(尺八版)より第4楽章

作曲／セザール・フランク  
演奏／辻本 好美、中谷 政文

## 6. シンクロニシティ

作曲／辻本 好美  
演奏／辻本 好美、中谷 政文



辻本 好美(つじもと よしみ)氏

和歌山県橋本市出身。平成22年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。平成25年日本大使館主催チリ・アルゼンチン南米ツアー公演、平成26年中米ツアー公演、スペイン国交400周年事業での演奏など、国際的に活躍。平成28年史上初の女性ソロ尺八奏者としてメジャーデビューし、アルバムがワールドチャート1位を獲得。海外公演は24ヶ国34都市を超える。国内ではFIFAU-20女子ワールドカップJAPAN2012、天皇皇后両陛下ご出席の第3回野口英世アフリカ賞授賞式及び記念晩餐会など様々な舞台で演奏。平成26年橋本市文化奨励賞、令和2年和歌山県文化奨励賞、大桑文化奨励賞を受賞。



中谷 政文(なかにま さふみ)氏

和歌山県和歌山市出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。その後渡米し、インディアナ州立大学ジェイコブズ音楽学部修士課程、マイアミ大学フロスト音楽学部博士課程を修了。第48回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第1位及び野村賞、第8回ソフィア国際ピアノコンクール“アルペール・ルーセル”第1位及びY.Boukoff賞など幼少期から現在に至るまで多数の受賞歴を誇る。現在、エリザベト音楽大学演奏学科ピアノ専攻専任講師。平成30年和歌山市文化奨励賞、令和2年和歌山県文化奨励賞を受賞。



# 和歌山県誕生150年記念 作文コンクール受賞者

《テーマ》

## 和歌山の未来へのメッセージ

### 最優秀賞

小学生部門	智辯学園和歌山小学校5年 神埜 佐奈 「和歌山県の未来のために」
中学生部門	和歌山県立向陽中学校2年 岸本 彩乃 「受け継がれる自然と伝統」
高校生部門	和歌山県立桐蔭高等学校1年 山本 愛奈 「和歌山の魅力を世界へ」

### 優秀賞

小学生部門	和歌山大学教育学部附属小学校5年	宮井 麗子	「このキモチを未来に…!!」
	和歌山大学教育学部附属小学校6年	新島 衣真	「和歌山の明るい未来に向けて」
	和歌山市立太田小学校6年	谷口 詠美	「語りついでいきたい和歌山の偉人」
	かつらぎ町立笠田小学校5年	岡本 真宙	「守っていききたい、四郷のくし柿」
	田辺市立田辺第一小学校6年	内谷 七星	「未来につなぐ和歌山」
中学生部門	和歌山県立向陽中学校2年	中村 朋	「大切にしたいこと」
	和歌山県立桐蔭中学校2年	井上 葵衣	「和歌山県の誇り」
	和歌山県立桐蔭中学校3年	大植 啓広	「131年越しの想い」
	和歌山県立古佐田丘中学校3年	俵 和花	「未来へつなぐ祖母の梅干し」
高校生部門	和歌山県立古佐田丘中学校3年	藤田 理恵	「未来へつなぐために」
	和歌山県立桐蔭高等学校1年	山原 裕大	「自然と人の和の国「和歌山」」
	和歌山県立日高高等学校2年	大江 杏依	「私の和歌山愛」
	和歌山県立日高高等学校2年	堀口 佳音	「和歌山の魅力を守り続けるために」
	和歌山県立田辺高等学校2年	石垣 七海	「つなげる、広げる未来」
和歌山県立田辺高等学校3年	西端 泉美	「和歌山を知ること」	

### 最優秀賞(小学生)

## 「和歌山県の未来のために」

智辯学園和歌山小学校5年  
神埜 佐奈 (かんの さな)

高野山、那智のたき、天神崎、友ヶ島…。新型コロナウィルスのえいきょうで、他府県に行けなくなり、家族で「和歌山県を楽しもう!」と決めてから、色々な場所に行った。そこには、言葉では言い表せないような美しさがいっばいに広がっていた。感動した。和歌山県には自然がいっぱいあるんだ、と改めて知った。その自然は、和歌山県でしか味わえないものだ。そんな和歌山県ができて150年。私は、和歌山県でくらしをしながら、和歌山県がいつたん生じたのか知らなかったし、考えたこともなかった。今回、今までの経験を活かして、ここ和歌山県の未来について考えてみた。

私は和歌山県の豊かな自然を大切にしていきたいと思っている。高野山の奥の院や、友ヶ島で目にした景色は、私をみりょうして、ずっと見ているあきることにはなかった。この景色を何十年、何百年たっても見ることができるのなら、それはとても幸せな事だと思う。町中では、ほとんどが、手を加えられている人工のものしかない。人は、もしかしたら、まっすぐ立っている人工的に造られた物や便利な新しいものを、美しいと思っているかもしれない。でも私は、ちがう。人の手を借りることのない、ありのままのすがたの自然に、生命力を感じ、そんな敬の念をいただき、美しいと感じるのだ。その美しい自然が、ここ和歌山県には残っている!これはとてもすごいことだ。こんな思いを私一人で味わうのはもったいない。もっと色々な人に和歌山県の自然を見てもらいたい。そして、和歌山県の良さを知ってもらいたい。そんな気持ちでいっばいだ。

しかしながら、現在、新型コロナウイルスのえいきょうで、他府県・他の国からの観光客が劇的に減っている。とても残念だ。でも、私達は前に進むべきである。今できることはないのか?一生けん命考えてみた。やっとひらめいたのは、自然の中にあるゴミを拾うことだ。人工物であるゴミを拾うと、自然はより美しくなる。そして、新型コロナウイルスが終息したら、みんなに気持ち良く和歌山県を楽しんでもらいたい。残念ながら、今の私にはそれだけしかできない。でも、小さなことからコツコツとしていくことで、自然はより美しくなると信じている。和歌山県に来てくれる人々のために、私もがんばろうと思う。

私の父と母は大阪府で生まれた。大学進学を機に和歌山県に来て、和歌山県が大好きになった。そしてその子供である私も和歌山県が大好きだ。和歌山県の自然が大好きだ。私達家族のように、和歌山県に移り住む人が増えれば、和歌山県は栄えていく。そうなるように、私は私にできることをやっていきたい。





## 「受け継がれる自然と伝統」

和歌山県立向陽中学校2年  
岸本 彩乃 (きしもと あやの)

「空青し山青し海青し」  
これは、和歌山県出身の詩人、佐藤春夫が『望郷五月歌』で和歌山の自然について書いた一節である。広がる空、青々とした山、そして輝く海。これを読むだけで、和歌山の豊かな自然が一心に感じられる。

和歌山県は、遙か昔から詩歌との関わりが深い。「和歌」山という県名の由来も、そこからきたというほどだ。

私は、去年、交流遠足で和歌の浦に行った。フィールドサーチで玉津島神社や片男波海岸、万葉館などを巡った。その中で、私が特に印象に残ったのは、万葉館で出会ったこの歌だ。

「若の浦に潮満ち来れば潟をなみ  
葦辺をさして鶴鳴き渡る」

これは、百人一首第四首を詠んだ歌人としても有名な山部赤人の歌である。私がこの歌に感動したのは、この歌が今から約1200年前、奈良時代に詠まれたと知ったからだ。ずっと昔、今とは食事や生活も社会の仕組みも違った時代に、山部赤人は今私が見ている景色を見て、私と同じように自然の美しさを感じていたのだ。それに気づいた時、私は、長い年月を経て伝えられてきたこの歌と、受け継ぎ守られてきた和歌山の自然に心を打たれた。

この交流遠足を通して、私は今まで知らなかった和歌山の魅力に気づくことができた。また、和歌山県に住んでいながらも、和歌山について知らないことがたくさんあるのだと分かった。だから、未来の和歌山を担う私達がすべきことは、まずは「和歌山について知ること」だと思う。

和歌山を意味する「紀」にかかる枕詞をご存知だろうか。それは「あさもよし」だ。この言葉の由来の一つに「浅く見て良し」がある。これを現代の意味にすると、「深く見なければ本当の良さは分からない」となる。和歌山の本当の良さを知るためには、和歌山に興味を持ち、よく調べ、よく見る必要があるのだ。

そのために私は、和歌山について学びたいと思った。和歌山について学ぶ機会はたくさんある。学校の授業や地域のイベント、また、地域の人に話を聞くこともできる。伝統のある寺社に行ったりするなど、自ら行動していきたいと思った。

このように、和歌山県は詩歌との関わりが深く、たくさんの歌が詠まれてきた。それは、和歌山の豊かな自然が、時代を超えてたくさんの人々に感動を与えていた証拠だ。だから私は、その豊かな自然を守り、受け継がれてきた伝統を未来へ繋いでいきたいと思った。そして、未来の和歌山が今よりもっと魅力のあふれる県になるように、私たちにできることを探していきたい。



## 「和歌山の魅力を世界へ」

和歌山県立桐蔭高等学校1年  
山本 愛奈 (やまもと あいな)

私が福井県から和歌山県に引っ越してきて今年で四年目になる。福井にいた時、和歌山に住む祖父母の家に帰省する際に友達によく「和歌山はどこにあるの。」

と聞かれた。そんな時いつも私は、  
「大阪の下にあるよ。」

と答えた。地図上では、和歌山は大阪の下に位置するからだ。そして、多くの方が大阪の位置は分かっているけど、和歌山の位置は知らないのだと残念に思った。そんな私も、まだまだ和歌山について知らないことがたくさんある。今回、和歌山県が誕生して今年で150年になると聞いて、もっと和歌山県のことを知りたいと思った。そして、この長い歴史の中で引き継がれてきた和歌山の文化・産業を発展させ、自然を守っていくために私達若い世代が何をすべきなのかを考えてみた。

和歌山と言えば、まず思い浮かぶのはみかんだ。みかんが和歌山の代名詞になっていると言っても過言ではないだろう。みかんの生産量日本一というのは、和歌山県民の誇りだと思う。私が幼稚園児だった頃、親戚の人に有田の山へみかん狩りに連れて行ってもらったことがある。それまではスーパーで買ったみかんしか食べたことがなかった私は、その時初めて自分の手で木からもぎ取ったみかんをその場でむいて食べた。その時の感動は今でも忘れられない。果汁がたっぷり甘く、枝に付いているみかんに次から次へと手が伸びたのを覚えている。地元で採れるものだからこそできる贅沢だと思う。私は中学生になり、和歌山に住むようになってそのみかん狩りに連れて行ってくれた親戚のおばさんに久しぶりに会った。そして残念な話を聞いた。もう今はみかんを作っていないということだった。おばさん達自身が高齢になってみかん作りが困難になってきたようだ。

みかんの他にも、柿、桃、梅干しなど和歌山を代表する食べ物がいくつかある。でも、どの作物でも作る人の高齢化が問題になるのだろう。温暖な気候に恵まれた和歌山県。だから、作り手がいれば、和歌山の農業はもっと発展していくはずである。地産地消という言葉がある。私は小学校でこの言葉を習ってから、なるべく地元で採れたものを食べるようにしている。新鮮で安心だからだ。口に入れるものだから、食べ物に安心を求めると人は多いと思う。でも、作り手がなくなると地産地消は難しくなる。食の安全安心のため、また和歌山の農作物を全国に広めていくために、農業の人手不足の問題に私達は真摯に向き合うべきである。

和歌山の魅力は他にもある。高野山、熊野古道に代表される世界遺産である。昨年修学旅行で、私は初めて那智の滝に行った。そこが世界遺産に認められた場所の一部かと思うと、そのスケールの大きさに圧倒された。世界遺産に登録されたことは、和歌山の自然が大切に守られてきた証だろう、と思った。

また、和歌山の伝統工芸品である紀州漆器、紀州箆、紀州へら箆も和歌山を代表するものである。中でも、漆器のお椀は普通の食事でも使えるものなので、小学校の給食に紀州漆器のお椀を採り入れるなどして、子供にも和歌山の伝統工芸品を身近に感じてもらいたい。そうすれば、きっと伝統を受け継ぐ大切さが子供達にも伝わると思う。

このように和歌山県には日本中に誇れるものがたくさんある。それは、これまで人々が築き上げ、守ってきたものである。今度は、私達が日本中に、そして世界へ和歌山の魅力を発信していき、未来につなげていきたい。それが、今、和歌山に住む私達の使命だと思う。





## 「このキモチを未来に…!!」

和歌山大学教育学部附属小学校5年  
宮井 麗子 (みやい れいこ)

私は和歌山が大好きです。大人になっても、ずっと和歌山に住みたいと思うほどです。だから未来には、今以上にもっとみ力あふれる和歌山になってほしいです。この作文を書く事になり、和歌山のみ力やもっと変わってほしい事を色々と考えてみました。

一番のみ力はフレンドリーな人がです。通学路ではみんなが、「オハヨウ、いってらっしゃい。」

と、笑顔で言ってくれて、元気をもらって学校に行くことができます。

そして、他にもみ力があります。それは、海や山、川などの自然やウメやミカン、カキや新鮮な魚などの特産物がいっぱいあることです。他に、お城やアドベンチャーワールド、紀三井寺、東照宮などの寺院、玉津島神社など観光スポットもたくさんあります。海のない栃木に住んでいる従姉妹は、とってもよるこんで、「海あっていいなあ。フルーツすっごくおいしい。」

と言ってくれます。お正月や連休、夏休みになるといつも来てくれます。いっしょに釣りに行ったり、川遊びやバーベキュー、海に行ったりします。白浜にも何度もパンダの赤ちゃんを見に行きました。幼い頃の従姉妹は、帰る日になるといつも大泣きでした。三年生になった今でも、

「もっといたい。帰るなんてやだーっ。」

「どこでもドアがあったら毎日ここに来たい。」

と言います。私や祖父母も泣きたくりますが、笑顔で、

「また来てよ。」

と言います。

こんなステキな和歌山だけど、改善してほしいこともあります。それは、バスや電車の本数が少なく、車も渋滞していて、とても不便だということです。家の近くのバス停を通るバスは少なく、下校時にはありません。十数分歩いて乗るバスも、帰りに乗りおくれると、バス停で30分待つ事にもなります。

従姉妹が来る時も、東京から大阪までは、飛行機で1時間、新幹線で2時間半で着くのに、そこから和歌山まではそれ以上に遠く感じるそうです。だから、いつも祖父母と関空や京都まで車で迎えに行きます。それも車の混んでいない日や曜日、時間帯などを選んでいきます。紀南に行く時も、渋滞しているとなかなか着きません。和歌山市内に行く時でも、「大阪まで行けるんちゃう?」というくらい、時間がかかる時もあります。

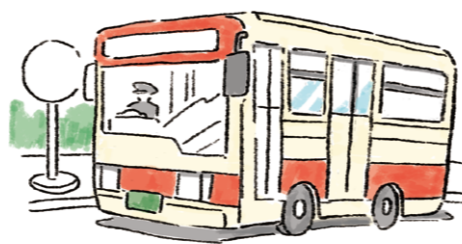
どこでもドアは無理だとしても、もっとも電車やバスが便利だったら、道はばが広くて、車でスイスイ行けたら…。きっと他県や外国からも、いっぱい観光客が来てくれて、和歌山の自然やフルーツ、海産物に感動してくれて、「帰りたくない。もっといたい。」

と言うかもしれません。そうしたら、和歌山の人達はみんな笑顔で、

「また来てね。」

と言うにちがいません。

私の願いは、ほど遠い未来ではなく、近い将来でもかなう事です。それは、今のステキな和歌山のまでもっと交通の便利が良くなる事です。そんな和歌山に、私は大人になっても家族とずっとずっとずーっとくらししていきたいです。



## 「和歌山の明るい未来に向けて」

和歌山大学教育学部附属小学校6年  
新島 衣真 (にいじま えま)

私は、和歌山県から若年層がいなくなってしまうことに目をつけました。このままでは和歌山県全体が高齢化社会となってしまう、和歌山県全体から活気が無くなってしまおうと考えました。若年層であふれる街にしていかなければいけないと思いました。

社会で活躍できる若年層を和歌山県から流出させないようにするためには、幼稚園や保育園から、大学や大学院までの教育環境を整備していくことが必要だと考えます。そうすることで、幼児から、大学生までの人達や、その家族らが増えます。それが実現されると、和歌山県の人口が大きく増えるということが考えられます。また、その他の効果としては幼稚園や保育園に通っていた人達が大学生になるまで、和歌山県に居続けることができるという効果が期待されます。さらに、和歌山県にある大学や高等学校に入学することを目的に和歌山県に来る人が増えると、ますます若年層の人口が増えていくと考えられます。

現在、和歌山市内に三校の大学が新設されましたが、さらに全国で数が少ない学部を創設していくべきだと思います。そのような全国で数少ない学部を創設すると、全国各地から入学志望者が集まることが予想されます。若年層の人数が増え、和歌山を活気づけることにつながるでしょう。

しかし、和歌山県に大学を作るだけでは和歌山県は良くならないと思います。それは、就職先が少ないからです。就職先がないと、たくさんの人々が和歌山県から流出してしまいます。今でも大企業は和歌山に存在していますが、様々な種類の会社は、揃っていません。だから、様々な業種を増やしていかなければいけないと思いました。

今のままでは、企業の和歌山県への進出は少ないと思います。だから前述の教育環境を整備することを一番に行い、人口を増やして企業へ和歌山県の良い印象を与えることで企業の和歌山への進出が増えると考えます。

企業が増えると、和歌山で育った人が都会に進出せずに、和歌山で様々な仕事に就職できるので、教育環境と同じように創っていくべきだと思います。

和歌山を子育てのしやすい街にすることも、幼児などが増え、大人になるまでの道が確保されるので、若年層流出の防止につながるでしょう。

教育環境が整っていて、就職先のある和歌山県をつくと、小さな子が育ち、大学まで和歌山県で進学し、和歌山県で就職し、その人の子供が和歌山県で育つというサイクルが出来上がります。このようなサイクルが出来上がると、常に和歌山県からの若年層流出をおさえることができると考えました。そして、商業施設なども増やして、和歌山県が活気あふれるようになると思いました。





## 「語りついでいきたい和歌山の偉人」

和歌山市立太田小学校6年  
谷口 詠美 (たにぐち えいみ)

私の考える、和歌山に残していきたいものは、「天石東村の『書』」に対する思いです。

和歌山の偉人の天石東村は、人生を通して書道教育の発展に尽くしました。

天石東村は1913年に和歌山市に生まれました。書道教育と芸術の発展に大きく貢献、活やくし、「考える書写書道教育」を常にモットーとした、書道教育の近代化を目指して、第一回全国書写書道教育研究会を開催し、我が国教育書道振興ののろしをあげた第一人者です。また、次の世代の教育のために、小、中、高の教科書の編集・執筆をし、研究資料とその技法講座の数々を残しています。

私は字を書くことが好きです。だから、小学一年生のころから、書道教室に通っています。私の通っている書道教室では、毎月「書の友」という本が配られます。これは、毎月自分の書いた字が評価される本で、この本に自分の級と名前がのります。書の友は、天石東村が作ったもので、亡くなった今でも、ずっと続いています。また、和歌山市の小、中学校では、市民憲章と、一年に二回の競書会が行われています。これも天石東村が生み出したものであり、和歌山独自の文化と言えるでしょう。

二年前、私の作品は、天石東村記念書道作品展で優秀賞に選ばれ、和歌山県書道資料館に展示されました。その時は、天国から天石東村にほめられている気がして、自分で自分がほこらしくなりました。だから、天石東村は亡くなっているけれど、今の自分の生活に深く関わっていると感じました。

ある日の書道教室で、私は、書道の先生に天石東村について話を聞きました。

「天石先生には、直接教えてもらってないんやけどね。」先生は、少しうれしそうに話し始めました。「私が高校生の時、まだ書の友の本で勉強してなかったんやけど、その時の私の先生が、『この子は書の心がわかる。』って天石先生が、あなたの字を見てほめてたよ。って言われたんよ。初めは、書の心って何って思ったんやけどなあ。」いつのまにか、先生は笑顔になっていました。「でも、字が好きでずっと書道習ってたんよね。」

それから長い年月がたったそうです。「ある時、書道教室開いてみようかなって思ってね。不安はあったけど、天石先生に『この子は書の心がわかる』ってほめてもらった言葉を信じて、思い切って書道教室開いたんよ。天石先生に、直接指導受けたかったけど、教えてもらう準備ができたころに先生が亡くなって後悔してるんやけどね。」話し終わったころには先生は満足そうで、私の心も熱くなりました。

その時、私は、これが「語りついでいく」ということなんだと感じました。私が尊敬している書道の先生の心には、きっと今もなお天石東村が生き続けているのでしょう。だから、先生に書道を教えてもらっている私も、天石東村の心を受けついでいけるように、今後も練習にはげみたいと思いました。

私は字を書くことが好きです。字は、その人の気持ちを表すと思います。これからも、美しく、人の心を動かせるような字を書いて、「書の心」がわかるような人間になりたいです。そして、そのすばらしさを周りの人にも伝え、語りついでいきたいと思っています。



## 「守っていききたい、四郷のくし柿」

かつらぎ町立笠田小学校5年  
岡本 真宙 (おかもと まひろ)

ぼくの住んでいる四郷地区は、くし柿作りが日本一です。みなさんは、くし柿を知っていますか。くし柿は、お正月におもちの上のにせる、特産物です。

くし柿には、くしにさす柿の数が決まっています。五個と十個の二種類で、それには、願いがこめられています。

五個は、「一人一人がみな幸せに」十個は、「いつもニコニコ仲むつまじく共に白髪の生えるまで」という願いです。

くし柿の歴史は長く、450年以上前から作られてきました。でも、今と昔では大変さがちがいます。

作り方の一つである「皮むき」では、昔はカミソリでむくという手作業だったのが、今では、機械で出来るようになっています。たくさん柿を一つ一つむいていた昔の人は、大変だったと思います。

ぼくの家もくし柿を作っているのだから、父の手伝いをよくします。大変でしたが、へた取りや皮むきの手伝いが出来るようになりました。

ぼくは、色々なことを学びました。くし柿をさす時、縄であむ所の柿と柿のすき間を空けることです。父から教えてもらいました。

ぼくは、家族の一員として手伝いが出来ることがうれしいです。

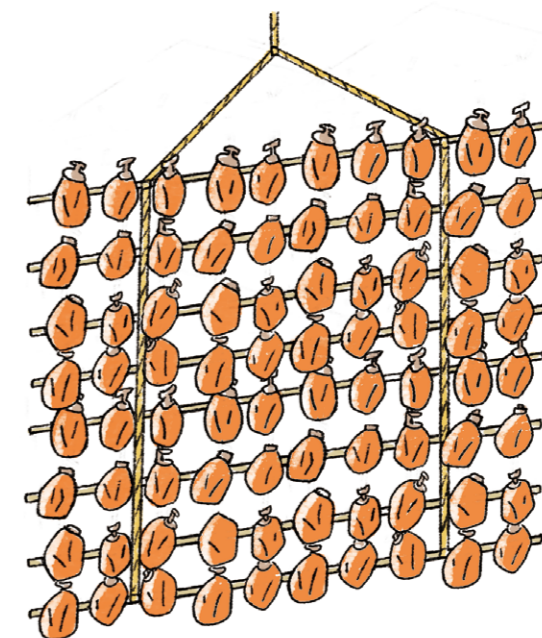
このように、くし柿は歴史のある伝統の特産品ですが、今では、お正月のお飾りとして、くし柿を使う家が減ってきています。

とても残念です。しかし、昔の人から受けついでた伝統は、これからも守っていかなければいけないと思います。

和歌山県以外の人たちにも、「四郷のくし柿」を知ってもらえるようにしたいです。

これからもずっと、四郷のくし柿がわが町自慢の特産品であるように、ぼくたちが後をついで、がんばりたいと思います。

これからも100年、もっと続くことを願って。





## 「未来につなぐ和歌山」

田辺市立田辺第一小学校6年  
内谷 七星 (うちたにななせ)

私が何気なく生活している和歌山県。生まれて今まで11年間何も気にせず生活していた私が、和歌山県について知る大きなきっかけとなったのは、修学旅行です。本当は都会でおしゃれな大阪方面に行きたかったけど、新型コロナウイルスのえいきょうで、行き先が和歌山県となり残念な気持ちでいっぱいでした。だけど、修学旅行をきっかけに、和歌山県について考える機会が増えました。

和歌山県は、ミカン・梅・柿などの果実、マグロ・白子などの水産物が有名です。世界遺産には、闘鶏神社・那智の滝・熊野古道があります。今、あげた特産物や世界遺産はすべて自然を活かしたものです。

世界的に有名な合気道を作った植芝盛平、粘菌学者として知られ、昭和天皇と会った南方熊楠など和歌山県とゆかりのある偉人がたくさんいます。

このように、歴史ある和歌山県を次の世代に受け継いでいくことが、今の私たちの役目だと思います。

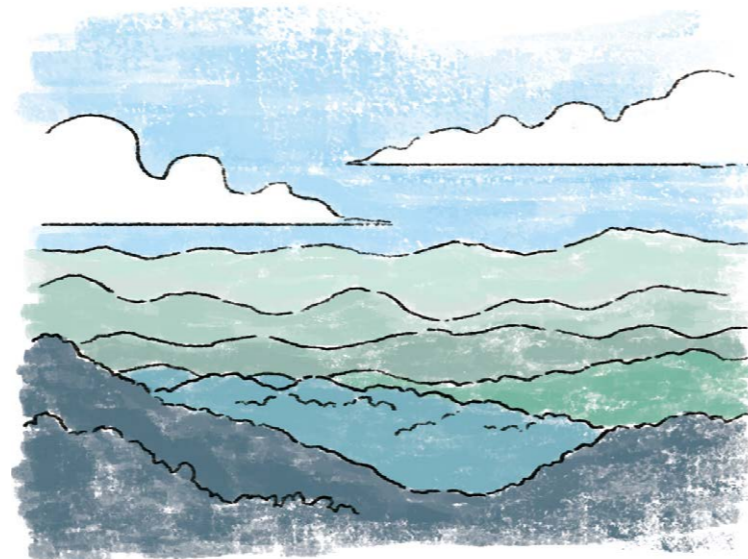
そのために、私が考える和歌山県のスローガンは、「現在の良さを生かし未来につなぐ和歌山県」です。このスローガンには、二つの意味が込められています。

一つ目は、今ある自然を守り未来につなぐという意味です。自然が魅力の和歌山県ですが、森林伐採や海洋資源など様々な問題があります。今の私たちができることは、SDGsでも学習したように、ゴミなどを拾い海の環境をこわさないようにすることや森林の木々を大切に使うことです。

二つ目は、町並みを活かして未来につなぐという意味です。和歌山県は、大阪や神戸などの都会とちがいで、高い建物が少なく、商店街など地元の人々の温かさを直接感じることができます。

自然豊かで人の温もりが直接感じられるという二つの良さを活かし、未来の和歌山県は観光客であふれる県になってほしいと願っています。願うだけでは夢は実現しません。

そのために、今からもっと勉強して、環境問題や私たちの暮らしに関心を持ち、SDGsの取り組みを実践していきたいです。それが、和歌山県に生まれた私たちの役目だと思います。



## 「大切にしたいこと」

和歌山県立向陽中学校2年  
中村 朋 (なかむらとも)

和歌山県、といえば何をイメージしますか。私は美しい自然をイメージします。那智の滝や白良浜、高野山や円月島など様々な自然スポットがあります。もし何年経ったとしても和歌山の自然が美しいまま残っていてほしいです。だから、和歌山の自然を大切にしたいです。

私は学校の授業の一環として海南市の「ビオトープ孟子」に行きました。「ビオトープ孟子」は生物多様性豊かな「さとやま」です。そこはたくさんの生物と緑に囲まれ、和歌山の自然の魅力を感じました。ニホンアカガエルという絶滅危惧種のカエルがいたり、今までに見たことがない植物が生えていたりして自然と楽しく触れ合えるとても興味深い経験でした。この経験を通して感じたことは、生物は自然なしでは生きていくことができないということです。絶滅危惧種の生物などを守っていくためにも、和歌山のこの美しい自然は欠かせません。

和歌山の自然が急速に減少しているという話をあまり聞いたことがありませんが、ひとりひとりが気を付けなければ、和歌山の美しい自然はだんだんと減っていきってしまうと思います。和歌山といえば緑がたくさんある、というイメージが消えて、みずぼらしい和歌山にはなってほしくないです。だから、日頃から意識して和歌山の自然を大切にしなければいけないと思います。できることはたくさんあると思うので、少しでも自分にできることを実行していくことが最善の方法だと思います。

私は緑豊かな和歌山に生まれて良かったと思っています。和歌山のこの美しい自然を守るために自分にできることを精一杯していきたいです。自然は生物のすみかになるだけではなく、リラックスできる憩いの場でもあると思います。和歌山が憩いの地ということでも知られていったらいいな、と思っています。

和歌山には自然だけではなく、他にもたくさん良いところがあると思うので、和歌山を大切にしていきたいです。





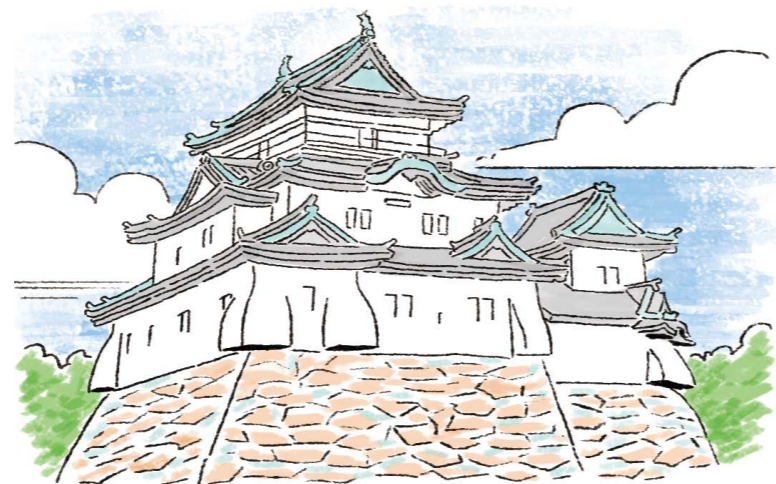
## 「和歌山県の誇り」

和歌山県立桐蔭中学校2年  
井上 葵衣 (いのうえ あおい)

歴史的な史跡に、思わず声が出る程の豊かな自然。忙しく時間が流れ、いつしか味気ない日々に感じてしまう人々を癒やす和歌山の名所は、枚挙に暇がない。新型コロナウイルスの影響で県内の観光客は大幅に減少したが、私にとっては他県の観光地ではなく郷里である和歌山の魅力を再認識する機会となった。小さい頃に行ったことがあるところでも、その時の情景を覚えていないもどかしさと、写真を見ただけでも伝わってくる美しさを感じられた。和歌山は決して辺鄙な地ではない。誇らしくて、素晴らしいと心から思った。

私はほとんど毎日、和歌山城の前を通っている。ある日、いつものように和歌山城を見ていると、ふと遠足で和歌山城を訪れたときのことを思い出した。確か、私が小学生だったときの暑い夏、たくさんの汗をかいて天守閣まで行った。その途中に、担任の先生から「桃瓦」についての話を聞いた。「桃瓦」と聞いて、私は全く想像が沸かなかった。和歌山城に桃があるなんて、聞いたことがなかったのだ。しばらく歩いて、私は桃瓦を見つけた。確かに瓦の部分に桃があったのだ。私は驚いて、少し信じられなかった。今までも和歌山城に行ったことがあったし、身近に感じていたからだ。それからさらに歩き、天守閣からの町並みを見た。自分の家や学校を探していると、今まで歩いた疲れが吹き飛ばすように思えた。遠いところに行ったわけでもないのに、今までで一番楽しい遠足であるように思えた。桃瓦や天守閣からの景色を見たことをその日、親や兄弟に話した。身近な和歌山城でも、知らなかったことがたくさんあったことが驚きだった。それから数年経った今、忘れかけていた記憶が本当に鮮やかに蘇ったのだ。

長い間住んでいても、その場所の本質的な魅力は案外詳しく知らないものだ。コロナウイルスが落ちついて、和歌山がより一層観光客で賑わってほしいと思う。私も、和歌山についてまだまだ知らないこともあると思うが、和歌山を紹介できるくらいの知識と熱情を持つ人になりたい。



## 「131年越しの思い」

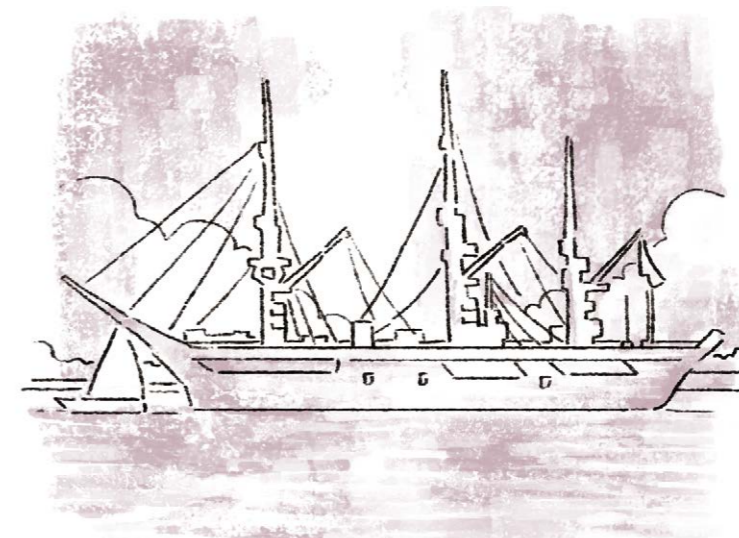
和歌山県立桐蔭中学校3年  
大植 啓広 (おおうえ たかひろ)

日本の地震調査委員会の研究によると、今後30年の間で70パーセントから80パーセントの確率で、南海トラフで巨大地震が発生するといわれている。その地震によって、和歌山県は大きな被害を受けるだろう。まして現在世界中を苦しめている新型コロナウイルスの影響を受けた場合、地震発生時の対応は前例よりも更に厳しいものになると考えられる。地震が発生したとき、僕たちに求められることは何なのか。

明治23年9月16日、紀伊大島近海である悲劇が起きた。親善航海のため日本へやってきたトルコの軍艦エルトゥールル号が沈没したのだ。これに気付いた紀伊大島の島民は咄嗟の判断で、乗客を助けに行った。そのとき、台風の影響で大変強い風が吹き、海は荒れ狂っていた。助けるには大きな勇気が必要で、死ぬという可能性もある大きなリスクがあった。それにも関わらず、勇敢な島民たちは自分の損得を顧みず、海へと出て行った。そして、69人の乗客を助けたのである。

この話には後日談がある。1985年、当時のイラクの大統領が、「イラン上空を飛ぶ飛行機のすべてを48時間後に撃ち落とす。」と宣言をした。このとき多くの国は救援機を送り、自国民を救出したが、日本は行動が遅れ、日本人は空港に残されたのだ。そんな中、トルコからの飛行機が空港に到着した。トルコ人も空港に残っていたため、誰もがトルコ人の迎えに来たと思っていた。しかし、トルコは日本人の救出を優先したのだ。その理由は、エルトゥールル号での恩返しだという。

巨大地震が発生したとき、防災用具などを用意していたとしてもパニックになり、持っていくことを忘れる人もきっと多くいるだろう。そんなとき、131年前のように、誰に対しても分け隔てなく、相手のことを思い行動する力がとても大切になるのではないと思う。また、他の地域や国が様々な被害を受けたとき、進んで助けてあげられるような県民性をつくり上げていきたい。和歌山県民が誇れる、131年前の歴史を受け継ぎ、それを発展させていくと、よりよい和歌山県、更には日本を築いていけると思う。





## 「未来へつなぐ祖母の梅干し」

和歌山県立古佐田丘中学校3年  
俵 和花 (たわらのどか)

「見て!今年も、ようさん美味しい梅干しができたで」祖母はそう言って、毎年、梅干しができあがると、嬉しそうに梅干しの入った大きな茶色の壺を抱え、私たちに見せてくれました。

梅雨の時期、近くの産直市場に行くと、館内いっばいに広がる南高梅の香りは、祖母との記憶と結びつき、頭の中で祖母と梅干し作りをした日々が蘇ってきます。

「和歌山に生まれたんやったら、梅干しの漬け方は知っとくんやで」祖母がよく私に言っていた言葉です。

祖母も、和歌山の生まれで、毎年、梅干し作りが祖母のルーティンワークとなっていました。梅雨の季節になると、親戚より熟れた南高梅がたくさん送られてきて、そこから祖母の梅干し作りが始まるのです。

南高梅のふわっと豊かに香るフルーティーな香りに引き寄せられ、祖母の隣で幼い頃より、じっと祖母の梅干し作りを見してきました。熟れた梅は、やわらかいので、やさしく扱いながら梅のヘタをそっと竹串で取り除いていきます。そこから一粒ずつ洗い、手ぬぐいでしっかり水分を拭き取っていくのです。私も最初の行程である、この作業は手伝わせてもらっていたのですが、梅のヘタのくぼみの部分までしっかり水分を拭き取っていないとすかさず、祖母のチェックが入ります。「カビの原因になるんやで」と祖母は、ヘタのくぼみに入っているわずかな水滴も見のがさず拭き取っていました。また、最終の行程である梅酢と赤シソでしっかり漬けた梅を竹ザルにのせ天日干しする際には、常に天気を気にしながら、時々梅同士間隔を空けて並べなおし、梅の向きを少しずつ変えて、均等に、日光に当たるようにしていくのです。

あらゆるものがスピード化されている現代社会においても、祖母は、全ての作業で、じっくりと小さな梅と向き合い丁寧に時間をかけ作り上げていました。だからこそ、祖母の作る梅干しは、鮮やかな赤色の見事な梅干しで果肉が厚いけれど、皮は薄く、しその香りに包まれて、さわやかなしょっぱさと独特の酸っぱさが口の中に広がり食べ飽きることのない最高の梅干しに仕上がっているのです。

でも、なぜ祖母は、和歌山に生まれたなら、梅干しの漬け方は知っておくべきだと言っていたのか。その理由が分かったのは、小学校五年生の時でした。社会の授業で和歌山県が梅の生産量国内シェア6割を超し圧倒的に日本一であることを学んだ時、祖母の言葉とつながりました。和歌山の特産品である梅。その梅からつくられた梅干しは大切に守っていくべき食文化だと祖母は伝えたかったのです。

ところが、私の周りで、梅干しが好きか聞くと「酸っぱいから苦手」という人も多く、「家では食卓には置かれているけど、自分は食べない」という人もいます。先日のテレビでも「若者の梅干し離れ」について取り上げられていました。

しかし、健康志向が高まっている今だからこそ、「一日一粒で医者いらず」とまで言い伝えられている梅干しの魅力や効能に多くの人が関心を持ってほしいと私は思うのです。

紀州の梅で作られた最高の梅干しが、何百年先、何千年先の未来まで多くの人に愛され続けていられるように先人たちから引き継いだ「梅干し」という日本の食文化を、これからの未来につなげていくのも、今、和歌山に住んでいる私たちの使命だと思うのです。

祖母が亡くなって二年半。残り少なくなってきた祖母の梅干しを眺めながら、私は母と梅干し作りに挑戦することを決めました。祖母との記憶と遺されたメモを頼りに、祖母と並ぶ梅干しが仕上がる日を目指し、これから毎年、梅干し作りを母とのルーティンワークとして、祖母の梅干しをしっかり後世に引き継いでいきたいと思えます。



## 「未来へつなぐために」

和歌山県立古佐田丘中学校3年  
藤田 理恵 (ふじたりえ)

「えらいこっちゃや、大損害やで」。受話器から聞こえた祖父の声。おとし、勢力の強い台風が猛威を振るい、大きな爪痕を残しました。

和歌山市内でコンビニを営んでいる祖父の家はその時、一日中停電が続き、一時は断水もしていたようで、商品のアイスクリームなどが全てとけてしまい、大損害になったそうです。しかし、断水していた時間があつたのにも関わらず、生活にはあまり困らなかったそうです。その理由は、日頃から水などを備蓄していたためだそうです。

昔から、地震や豪雨などの被害にあうことが多い和歌山県。実際に、1951年から2020年8月までの約70年間で台風の上陸数が24回と、全国でも三位となる回数なのです。私の住む橋本市でも、毎年台風の季節になると警報が発令されることがよくあります。

実際に避難したことはないのですが、地域の防災訓練にはよく参加します。小学6年生の時には、総合的な学習の時間に一年を通して災害と防災について学び、11月には地域全体で協力して防災訓練を行いました。6年生の児童は学校に泊まって、実際に避難所と同じような状態で寝たり、非常食を食べたり、貴重な体験をさせていただきました。私は、避難所になった時に教室をどう活用するのかを決めたり、救護の時に使うマニュアルを作ったりする係でした。その中でも、けがをした人が来た時に使うマニュアルを日本語と英語で作成する係で、大変でしたが分かりやすいマニュアルを作成することができました。他の係には、避難所を運営する係や、避難所を運営するのに必要な物品を補充する係、けがをした人を救護する係などがあり、訓練の数か月前から準備して、本番でも成功することができました。この訓練の後、同級生二人と担任の先生が東京へ行き、この訓練を紹介してきました。すると、いろいろな県の方から「真似したい!」と、詳しい資料を求めてくださる声上がり、一番遠い所では北海道の方から声をかけていただいたそうです。私は、このように全国の方に求めていただけるような訓練をつくるのができて本当によかったなと思いました。

和歌山県では、災害が起きたときのために防災マップを配布したり、災害情報をメールで配信したりと、他にもさまざまな取り組みがされています。私自身も、非常食や水を用意し、防災リュックをつくっています。今後30年以内に巨大地震が起こる確率が高かったり、地球温暖化の影響で海水温が上昇して台風が発達し勢力を増す可能性があったりと災害が身近になっていると思います。和歌山県は特に、南海トラフ巨大地震の被害が大きいといわれているため、一人一人が災害に関する知識を取り入れ、深めることが大切だと思います。日頃からの備えがあれば、命を失うことが少なくなり、未来へ伝えていくことができるのではないのでしょうか。





## 「自然と人の和の国「和歌山」」

和歌山県立桐蔭高等学校1年

山原 裕大 (やまはら ゆうだい)

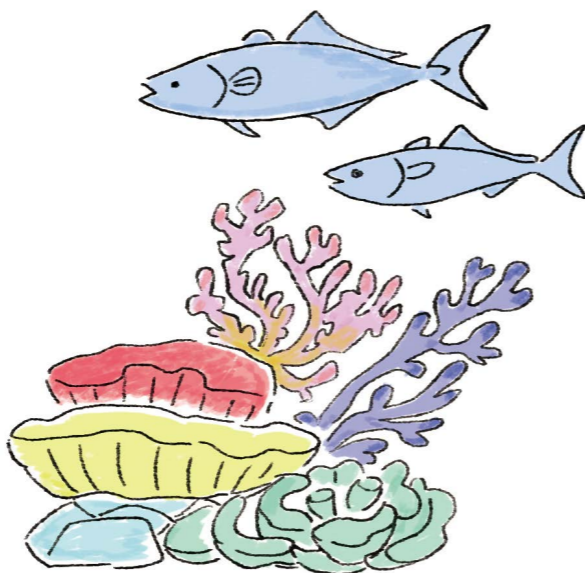
和歌山県の良さとは何でしょうか。和歌山県にはもちろんたくさんの魅力があります。日本一の生産量を誇る梅干しやみかん、和歌浦や白浜、串本の橋杭岩などの美しい自然、高野山や熊野古道といった世界遺産など数え切れないほどの魅力があります。

僕は生まれてから16年この和歌山県で過ごしてきました。また、和歌山県の歴史についてもたくさん学んできました。そんな僕が未来の和歌山県について二つのメッセージを伝えたいと思います。

一つ目のメッセージはこの和歌山県の美しい自然をずっと残して欲しいということです。今世界では環境問題についての関心が高まっています。そうした中でも美しい自然を守ることはとても重要です。また国連が掲げているSDGsにも「海の豊かさを守ろう」という目標があります。そのような状況でもあるので、美しい自然を守ることはとても重要だと思います。現在和歌山県にはラムサール条約湿地に指定されている串本沿岸海域があり、貴重なサンゴ礁を守っています。和歌山県は他にも美しい白い砂浜の広がる白浜や歴史ある和歌の浦などがあり、これらを守っていくべきです。これは水産資源を守ることもつながります。そうしていけば和歌山はより良い土地へと進化すると思います。

二つ目のメッセージは県民の優しさ、温かさを未来にも受け継いでいきたいということです。和歌山県民は朗らかであたたかいというイメージを僕は持っています。近年和歌山県には外国人観光客が増えています。それはもちろん和歌山に素晴らしい場所がたくさんあるということも大きいですが、人があたたかいということも大きな理由になっているのではないのでしょうか。和歌山県の県民歌には「人の和」という歌詞があります。このことを県民みんなが大切にすれば、もっと良い和歌山県になると思います。

ここまで二つのメッセージを挙げましたが、これらを達成するためにはもっと重要なことがあります。和歌山についてもっと知り、和歌山を好きになるということです。またこれは特に自分たちの世代に対して言えることでしょうか。だから僕はもっと和歌山について知り、好きになって、故郷をより良くしていけるようになりたいです。



## 「私の和歌山愛」

和歌山県立日高高等学校2年

大江 杏依 (おおえ あい)

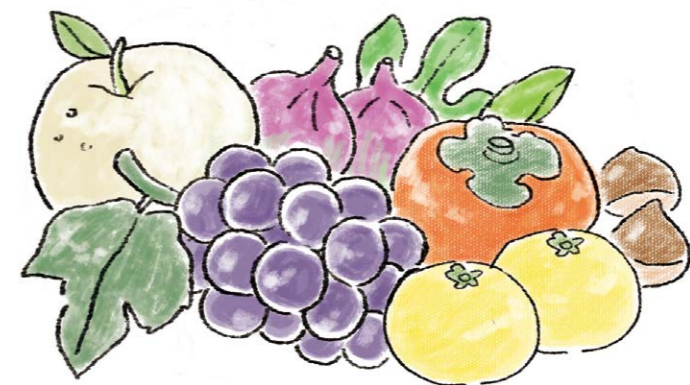
私は生まれ育った和歌山が大好きだ。きれいな自然、美味しい食べ物、優しい人々…どこをとっても他県には負けない魅力があるのではないかと私は思う。今回はそんな私が大好きな地元和歌山の魅力をこのメッセージを通してたくさんの人に伝えたい。

まずは自然。和歌山にはきれいな海があり、緑の美しい山がある。自然が多いため田舎と見られがちだが、都会では味わえないたくさんの自然の良さを感じる事ができる。そして、のびのびと周りに流されず自分のペースで生活することができる。私は小さいとき毎日のように兄弟や友達と公園や山で遊んで過ごした。ゲームなど屋内で遊ぶ事も好きだったけれど鬼ごっこやサッカーなど外で体を動かすのが大好きだった。最近では、辛くて一人になりたいときよく家の近くの海に行く。辛くてしかたないことも海に行けば悩んでいた事が馬鹿らしくなり前向きな気持ちになれるし元気付けられる。このように楽しい時も辛い時もいつでも私のそばには自然があった。和歌山の美しい自然は私にとって必要不可欠なものである。

次は食べ物。特産品や有名なものはたくさんあるが、中でも特に果物の多さと美味しさは忘れてはならない大きな魅力だと思う。私は小学校まで、たくさんの果物があるのは当たり前だと思っていた。しかし、他県の転校生の友達が和歌山の果物の多さに驚いているのを見て、これは和歌山ならではのなんだなと思った。その日からずっと、美味しい果物は和歌山の魅力だと思っている。

最後は人。和歌山の人には本当に温かくて優しい人ばかりだと思う。朝登校するときに会ったら「おはよう。」と声をかけてくれたり、困っていたら助けてくれたり、家族のように接してくれる人がたくさんいるのは本当に素晴らしいことだ。今、私が人見知りなく誰とでも話す事ができるのはこのような人々のいる和歌山で育ったからだと思う。私が大人になった時には、自分がしてもらったのと同じように地域の人とコミュニケーションを取り合って生活していきたい。

以上より和歌山には素晴らしい魅力がたくさんある。この和歌山に生まれたことをとても誇りに思う。私は、大学を卒業して社会人になったら和歌山で就職し、大好きな地元へ貢献できるような人になりたいと思っている。そして今あるたくさんのものをこれからも守っていききたい。この作文に目を通してくれたすべての人が私と同じように地元を誇りを持って大切にしてくれると嬉しく思う。





## 「和歌山の魅力を守り続けるために」

和歌山県立日高高等学校2年  
堀口 佳音 (ほりぐち かのん)

和歌山県の魅力とは何ですか。この質問をする  
と、たいいていの人々が山や海、農作物などの自然のこ  
とについて答えるだろう。私もそのうちの1人だ。私が  
住んでいるところは、海もあり、山もある、梅の産地と  
して有名なみなべ町。私は生まれてからずっとみな  
べ町に住んでいて、小学校や中学校の教室からは  
海が見え、廊下からは山が見えた。こんな自然を毎  
日見ることが出来るのが私の中では当たり前で、こ  
の当たり前が成立しない風景を想像することができ  
なかった。しかし、大阪や東京に行ったとき、私の中  
の当たり前が一瞬にして崩れてしまった。どこを見て  
も、山も海も見つけられなかったのである。このとき、  
私は初めて和歌山の自然の素晴らしさを痛感した。  
それと同時に、この自然は絶対に和歌山から失って  
はいけなと強く思った。



では、山や海と最も深く関わっているものは何か。それは、第一次産業の存在である。もちろん、私たち県民一人ひとりも  
関わっていることに間違いはないが、直接守ってくれているのは、やはり第一次産業従事者だろう。しかし、近年では、第一  
次産業の従事者は高齢化に伴い減少し、特に林業に関しては、それにつれて放棄されている土地が年々増加している。  
この状態がさらに進んでいけば、和歌山の自然は徐々に失われていくだろう。

このことを防ぐために私たちには何が出来るのか。継続的なボランティア活動、従事者を増やすための対策強化、それとも  
もっと違う視点から考えたアイデアが必要なのかもしれない。私は小学4年生のときに学年行事で植林活動をする機会が  
あった。しかし、そこに行ったのは一度だけで、その後のことは何も知らない。私はここに疑問を覚えた。植林活動の目標は  
本当に達成したと言えるのだろうか。私は言えないと思う。なぜなら、その後の手入れを一切行っていないからだ。今例に  
挙げたのは林業のボランティア活動であるが、農業、漁業も同様ではないのか。これはきっと解決するのは難しいかもしれ  
ない。しかし、解決しなければならぬ課題だと私は思う。

一人で考えては良い具体策は思い浮かばない可能性が高い。けれども、県民一人ひとりが意見を出しあえば、最適な  
具体策が生まれるように思う。今こそ、県民が一体となり、考え、行動すべきだ。今ある和歌山の豊かな自然を守るために。

## 「つなげる、広げる未来」

和歌山県立田辺高等学校2年  
石垣 七海 (いしがき ななみ)

「和歌山といえば何ですか。」

こう問われたら、きっと「自然」を連想する方が多いの  
ではないでしょうか。

そう、和歌山は自然にとっても恵まれています。では、  
10年後、30年後、100年後まで和歌山が自然豊かで  
あり続けるためには何が必要だと考えますか。

私はインターネットがとても重要だと考えます。新型  
コロナウイルスが日本を襲い、世界を脅かした2020  
年、世の中は悲しみで溢れただけではありませんで  
した。それは、インターネットの新たな可能性の発見  
でした。リモートでの授業や出勤、飲み会などが生活  
の一部になったことは皆さんも実感したのではないで  
しょうか。

そして、私はこのインターネットこそが未来の和歌  
山の「自然」を守っていく上で鍵となる存在である  
と思っています。

例えば、インターネットがあれば和歌山からのリモート出勤が可能になります。和歌山ののどかな自然に囲まれ、穏やかな  
気持ちで仕事ができる、そうすれば心も満たされた豊かな生活を送れる…。そんな暮らしが出来る和歌山に住んでみたい、  
住み続けたいと思いませんか。

また、インターネットがあれば足を運ばなくても和歌山に訪れることができます。例えば、VRを使えば東京で入院している人  
でも白浜の海に潜れたり、古座川で泳げたり、高野山に登れたりと様々なことができます。もっと進歩すれば感触や匂いまで  
も楽しめるかもしれません。医療には心のサポートもとても重要です。自然を感じることは患者さんの心を安らげられると思  
います。それは、インターネットによって叶えられる未来ではないでしょうか。そのような新しい医療の形を和歌山が支える未来  
はとても魅力的だと思いませんか。

このようなもっと魅力ある未来へ和歌山が進んでいくために私は人材の育成が必要不可欠だと考えます。

まず、インターネットなどのIT関係の技術に精通した人材の育成です。和歌山がインターネットでつながり、日本とつながり、  
世界とつながるようになれば、インターネットでの問題がさらに起こりやすくなるでしょう。そうすれば、そのような問題を解決  
する技術者が必要になると思います。

そして、和歌山を愛し、和歌山を知り尽くした人材の育成です。

これらを両方持ち合わせた人材を育成していくことでIT技術で、もっと和歌山を発信し、「未来の和歌山」がもっと魅力的  
で活力ある豊かな地となれるのではないのでしょうか。





# 「和歌山を知ること」

和歌山県立田辺高等学校3年  
西端 泉美 (にしばた いずみ)

「Think globally, Act locally」という言葉があります。世界を見て、地域で行動する。これは今ここにいる自分のみに関心を向けるのではなく、世界の一構成員として自分が今どこにいて周りにはどんなものがあるのかを知ること、そして自分の中に創り上げた世界という知識を持って今度はどのように「自分」を変えるか、という意味だと私は理解しています。

私が通う和歌山県立田辺高校にはSEEKERという委員会があります。正式名称を生徒国際委員会と言い、先の言葉のように世界に目を向け、地元に戻元することを目的とした委員会です。私はここに所属して沢山の和歌山の魅力に気づくことができました。和歌山県には、世界に誇る魅力があります。さらに和歌山が優れているのは、地元の人々がそれらを大切に「守り」「育て」ているという点においてです。私はそれを様々な活動を通じて身をもって学んできました。



たとえば、平成27年に世界農業遺産に登録された「みなべ・田辺の梅システム」はまさにその典型例です。梅システムでは梅産業を中心として、製炭業や多様な農作物、里山の生物多様性が約400年にわたり育まれてきました。私が焦点をあてたいのは、このシステムの長い歴史です。これは地元民が自らシステムを構築する一員として産業と共に生きてきたこと、すなわち彼らが、生活基盤として梅産業に係る活動を受け入れてきたことの証明に他なりません。また、梅産業に関して、梅の収穫期には梅農家だけではなく町の多くの人々が収穫に参加する慣習もこの一つと言えるでしょう。フィールドワークの際には、訪れた梅農家や梅食品会社、道の駅の方々全員が私たち高校生の活動を温かく迎えてくださり、作業内容を丁寧に教えてくださいました。地元の方々自身が自信と誇りを持って伝統文化を伝えてくださるからこそ、私たちにもそれが素晴らしく魅力的に感ぜられるのです。このような伝統文化を「守り」「育てる」精神が和歌山を支えてきたのだと思います。

ところで、当然ながらここで言う「育てる」という言葉は文化の継承のみを意味するわけではありません。それよりもむしろ、「Act locally」というもっと大きな枠で捉える必要があります。私は活動の中で、地元の活性化に尽力する大人に数多く出会ってきました。彼らの影響で和歌山への印象を変えた高校生は沢山います。特に、今日国際化が著しい観光業における和歌山県の発展を知ったことは私にとって和歌山のイメージを大きく変える契機となりました。

和歌山県では、今までの常識を変えるような革新的な取り組みが多数行われています。学んだ中で私が一番印象深かったものは平成25年から27年の和歌山ゴールデンイヤーズの取り組みです。政教分離の常識を超えた新しいタイアップ、徹底的なメディア戦略、和歌山にしかない魅力を最大限に引き出した取り組みが強く印象に残っています。また、県全体での大幅な観光客数の増加という結果が伴っていることは和歌山県の将来性を私たちに実感させてくれました。

「知る」ことは全ての基礎です。そして「知る」ことが全てでもありません。あと一歩「知る」だけで気づくことのできる魅力が和歌山には沢山あります。そしてそれが誇りを生み、誇りが和歌山を盛り上げる新たな原動力を生みます。これは言わば「知る」ことに始まる自動化されたプロセスであり、そうやってより豊かな郷土が育まれます。このように和歌山を「守り」「育てる」人がいるかぎり、和歌山の明るい未来は約束されたも同然ではないでしょうか。

# 物産販売のご案内



プレミアム和歌山推奨品をはじめ、選りすぐりの県産品を販売します。(県文前広場)

## 北山村じゃばら果汁

目の覚める酸味が特徴の北山村じゃばら果汁。「うまにが」風味で様々な料理のかくし味や焼酎割にどうぞ。



(株)じゃばらいず北山  
北山村下尾井 335  
TEL.0120-928-933

## んめ

んめは、当社伝統の製法で漬上げた「うす塩味梅」の大粒梅を一粒ずつ袋詰め包装した価値ある梅干しです。  
※様々な味の梅干しを販売します。



井上梅干食品(株)  
みなべ町山内1095-1  
TEL.0739-72-2730

## B1 イノブタ 三種のサラミ

B1イノブタを定番のあらびき、ピリ辛のチリソー、備長炭入りと三種類のサラミに加工しました。お酒のおつまみにピッタリ!



(株)サンフレックス  
イブファーム事業部  
すさみ町周参見4378-1  
TEL.0739-55-2008

## 天風ラスク

高野山麓産「天野米」100%で作られたシフォンケーキを、1ホールまるごとラスクに。和歌山産のみかん・蜂蜜・黒ごま豆腐の3種類のお味を楽しむ贅沢なスイーツです。



一の橋観光センター(株)  
高野町高野山737  
TEL.0736-56-2631

## 高田耕造商店 紀州棕櫚のたわし

国産の棕櫚を使用し、純国産のたわしを製造する高田耕造商店。日本で唯一、棕櫚山の手入れから棕櫚の採取、製造、販売までを行っています。一つ一つ熟練の職人による手作りのため、ご要望に応じた形状に仕上げることができます。  
※用途に応じたたわしを販売します。



(株)コーゾー  
海南市棕木97-2  
TEL.073-487-1264

## 紀州金山寺味噌

米・はだか麦・大豆(遺伝子組み換えでない)に白瓜・丸茄子(湯浅茄子)・生姜・紫蘇を混合して昔ながらの伝統を受け継ぎ醸造したおかず味噌です。



あみ清 数見商店  
湯浅町湯浅519  
TEL.0737-62-2318

## かげろう

薄くサクッとした表面にふわふわの生地と優しい甘さのクリームをサンドした名物「かげろう」は、昭和42年に販売開始。独自の技法と、ほかにはない触感でこれまでに数々の賞を受賞。南紀白浜を代表する銘菓です。  
※「紀州銘菓 袖もなか」も販売します。



(株)福菱  
白浜町1279-3  
TEL.0739-42-3128

## 熊野本宮・釜餅(よもぎ)

釜でもち米を炊き、粒を残してすりこ木で搗く、熊野の伝統をそのまま受け継ぐ餅菓子。よもぎの香りいっばいのもち生地で作られたあんをふんわり手包みしました。



(有)熊野鼓動  
田辺市本宮町本宮1301-2  
TEL.0735-42-8310

## ◆和歌山県優良県産品(プレミアム和歌山)推奨制度とは

安全・安心を基本に、幅広い分野で優れた県産品を“和歌山らしさ”、“和歌山ならではの”視点で推奨しています。





# 和歌山県の成り立ち

紀伊半島に位置する和歌山県は、古来「紀伊国」と呼ばれていました。国内には、伊都・那賀・名草・海部・安謐(在田)・日高・牟婁の7つの郡があり、国府は今の和歌山市府中に置かれていました。

以降、室町時代までは地方豪族や在地武士団の盛衰が繰り返されますが、天正13年(1585年)の豊臣秀吉の紀州攻めによって、一応の平定をみるようになります。

関ヶ原の戦い後、浅野幸長が若山城に入り紀伊を治めましたが、元和5年(1619年)、紀伊と南伊勢を合わせた55万5千石の紀州藩主として、徳川家康の第10子頼宣が若山城に入城し、紀州藩は徳川御三家として重きをなしていました。このとき安藤・水野両付家老が田辺・新宮に支藩として配され、それぞれ田辺城(3万8千石)と新宮城(3万5千石)を治めていました。

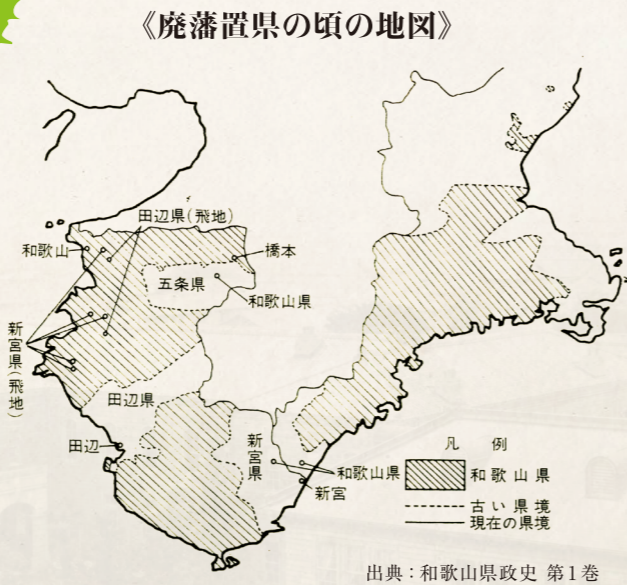
明治2年(1869年)紀州藩は、和歌山藩・田辺藩・新宮藩の3藩に分けられますが、明治4年(1871年)廃藩置県によりそれぞれ藩から県に変わり、同年11月22日に3つの県と五條県の旧高野山領が統合され今日の和歌山県が誕生しました。

# 紀伊国・和歌山県の由来

和銅6年(713年)に、二字の好字を用いて国名をつけるようにとの中央官令があり、この時から「紀伊国」と表記されるようになりました。『日本書紀』ではこれを「きのくに」と訓み、これは本県がはじめ「木の国」と呼ばれていたことに由来します。

また、「和歌山」の名の由来ですが、元々、和歌山というのは上代の国府、藩政時代の藩主の居住地であった地の呼び名で、その名の由来については諸説あるうち、昔から和歌浦の名が最も知られていたため和歌山の名ができたという説が有力です。藩政時代には「若山」に統一された時期もありましたが、再び「和歌山」に改められました。

※本文は「和歌山県政史 第1巻」を参考にしています。



出典：和歌山県政史 第1巻

# 和歌山県の誕生日は11月22日

和歌山県は誕生以来、多くの先人が今に至る歴史を紡いできました。平成元年7月に公布した「ふるさと誕生日条例」では、ふるさと誕生日を11月22日と定め、「県民が、郷土についての理解と関心を深め、ふるさとを愛する心をはぐくみ、自信と誇りをもって、より豊かな郷土を築きあげることを期する日」としています。



# 和歌山県の150年

和歌山県	国内・世界
<p>明治4年(1871年) 和歌山・田辺・新宮3県を統合し、旧高野山領を含め和歌山県設置(和歌山県誕生)</p> <p>明治5年(1872年) 戸口調査(人口55万6919人)</p> <p>明治12年(1879年) 第1回県会開会、議員総数43人</p> <p>明治22年(1889年) 市制町村制施行、和歌山市が誕生、1市2町227村1組合県下一円で大洪水、死者行方不明者1400人以上</p> <p>明治23年(1890年) トルコ軍艦エルトゥールル号が大島沖で遭難、死者587人①</p> <p>明治25年(1892年) この頃からオーストラリアの真珠貝採取出稼移民増加②</p> <p>明治27年(1894年)</p> <p>明治28年(1895年)</p> <p>明治30年(1897年) 和歌山市で電灯がつく</p> <p>明治33年(1900年) 紀和鉄道(五條一和歌山)全線開通③</p> <p>明治36年(1903年) 南海鉄道(現南海電気鉄道)(難波一和歌山市)全線開通④ 和歌山市で電話開通</p> <p>明治37年(1904年)</p> <p>明治38年(1905年)</p> <p>明治42年(1909年) 和歌山軌道線(和歌山県庁前(西丁丁)一和歌浦)開通⑤</p> <p>明治43年(1910年)</p> <p>大正9年(1920年) 第1回国勢調査、人口75万411人</p> <p>大正11年(1922年) 全国中等学校野球大会で和歌山中学校(現桐蔭高校)が2年連続優勝</p> <p>大正12年(1923年)</p> <p>昭和5年(1930年) 阪和電気鉄道(東和歌山(現和歌山駅)一天王寺)全線開通</p> <p>昭和6年(1931年)</p> <p>昭和7年(1932年) 丸正百貨店が開店⑥</p>	<p>廃藩置県</p> <p>大日本帝国憲法発布</p> <p>第1回衆議院議員総選挙 第1回帝国議会開院式</p> <p>日英通商航海条約調印(領事裁判権の撤廃) 日清戦争始まる 日清講和条約(下関条約)調印 三国干渉起こる</p> <p>日露戦争始まる</p> <p>日露講和条約(ポーツマス条約)調印</p> <p>大逆事件</p> <p>関東大震災</p> <p>満州事変勃発</p>

①エルトゥールル号

②現地での過酷な潜水作業

③紀和鉄道時刻表

④南海鉄道全線開通

⑤市電開通

⑥和歌山市本町通り



昭和10年 (1935年) 和歌山城が国宝に指定

昭和11年 (1936年) 紀伊半島南部が吉野熊野国立公園に指定  
前畑秀子、ベルリンオリンピックにて女子平泳ぎ200mで優勝(日本人女性初の金メダル)

昭和13年 (1938年) 和歌山県庁舎(現庁舎本館)が現在地へ新築移転⑦

昭和14年 (1939年) 第二次世界大戦始まる

昭和15年 (1940年) 紀勢西線(和歌山—紀伊木本(現熊野市駅))開通

昭和16年 (1941年) 太平洋戦争始まる

昭和17年 (1942年) 住友金属工業(現日本製鉄)和歌山製鉄所操業開始

昭和20年 (1945年) 和歌山市大空襲、死者1212人※、和歌山城焼失⑧  
※数値が資料によって異なるが「和歌山市庶務課事務報告書」による。

昭和21年 (1946年) 南海道地震発生、死者行方不明者269人、新宮市に大火2398戸焼失

昭和22年 (1947年) 県広報紙『県民の友』創刊⑨

昭和24年 (1949年) 国立和歌山大学設置  
湯川秀樹がノーベル物理学賞を受賞(日本人初のノーベル賞受賞)

昭和25年 (1950年) 和歌浦・友ヶ島が瀬戸内海国立公園に編入

昭和26年 (1951年) サンフランシスコ講和条約、日米安全保障条約調印

昭和28年 (1953年) 大洪水が発生し、県下全域に災害救助法を発動、死者1046人⑩

昭和30年 (1955年) 人口100万人突破(100万6819人)

昭和33年 (1958年) 和歌山城再建

昭和34年 (1959年) 伊勢湾台風

昭和35年 (1960年) 60年安保闘争

昭和39年 (1964年) 昭和の市町村合併で7市36町7村となる

昭和40年 (1965年) 国鉄(現JR西日本)紀勢本線に特急「くろしお」号新設(天王寺—名古屋)⑪

昭和43年 (1968年) 南紀白浜空港が完成し、白浜—東京に定期便を就航⑫

昭和44年 (1969年) アポロ11号、有人で月面着陸

昭和45年 (1970年) 大阪で日本万国博覧会開催

昭和46年 (1971年) 和歌山軌道線を廃止  
第26回国民体育大会「黒潮国体」開催

二・二六事件

第二次世界大戦始まる

太平洋戦争始まる

第二次世界大戦終結

日本国憲法施行

サンフランシスコ講和条約、日米安全保障条約調印

伊勢湾台風

60年安保闘争

新幹線営業開始  
東京オリンピック開催

アポロ11号、有人で月面着陸

大阪で日本万国博覧会開催



⑦落成当時の県庁舎



⑧戦災(和歌山市七番丁)



⑨「県民の友」創刊号



⑩7.18水害



⑪特急「くろしお」号



⑫開港時の南紀白浜空港

昭和47年 (1972年) 阪和自動車道(阪南IC—海南IC)開通

昭和48年 (1973年) 第28回全国植樹祭開催

昭和49年 (1974年) 県立箕島高等学校野球部が甲子園で春夏連覇達成⑬

昭和52年 (1977年) 高野龍神スカイライン開通

昭和54年 (1979年) 海南湯浅道路開通⑭

昭和55年 (1980年) 田辺市の天神崎がナショナルトラスト第1号に認定⑮

昭和59年 (1984年) 11月22日を「ふるさと誕生日」とする条例制定

昭和60年 (1985年) 和歌山マリーナシティが完成し、JAPAN EXPO「世界リゾート博」開催

昭和62年 (1987年) 平成元年(1989年) 11月22日を「ふるさと誕生日」とする条例制定

平成元年 (1989年) 和歌山マリーナシティが完成し、JAPAN EXPO「世界リゾート博」開催

平成6年 (1994年) JAPAN EXPO「南紀熊野体験博」開催

平成7年 (1995年) 平成11年(1999年) 「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコ世界遺産に登録⑯

平成11年 (1999年) 平成13年(2001年) 平成の市町村合併で9市20町1村となる

平成13年 (2001年) 第62回全国植樹祭開催  
紀伊半島大水害により死者行方不明者61人

平成16年 (2004年) 近畿自動車道紀勢線(南紀田辺—すさみ南)開通  
第70回国民体育大会「紀の国わかやま国体」開催  
第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」開催  
第20回国勢調査、人口96万3579人  
「みなべ・田辺の梅システム」が世界農業遺産に認定⑰

平成18年 (2006年) 平成23年(2011年) 京奈和自動車道紀北西道路(紀の川IC—和歌山JCT)全線開通  
県立図書館で南葵(なんき)音楽文庫の公開開始⑱

平成23年 (2011年) 令和2年(2020年) 和歌山県誕生150年

平成27年 (2015年) 令和3年(2021年)

平成28年 (2016年)

平成29年 (2017年)

沖縄が日本に返還

オイルショック始まる



⑬県立箕島高校野球部 春夏連覇達成



⑭海南湯浅道路開通式

日航ジャンボ機墜落事故

国鉄が分割民営化され、JRが誕生

天安門事件  
「ベルリンの壁」が崩壊

関西国際空港開港



⑮動植物の宝庫 天神崎

阪神淡路大震災  
地下鉄サリン事件

アメリカで同時多発テロ



⑯紀伊山地の霊場と参詣道

東日本大震災  
東京電力福島第一  
原子力発電所事故

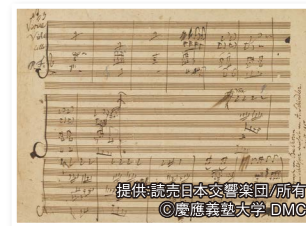


⑰「みなべ・田辺の梅システム」  
世界農業遺産認定セレモニー

マイナンバー制度  
運用開始

新型コロナウイルスの  
世界的流行始まる

東京オリンピック開催



⑱ベートーヴェンの自筆楽譜



# 和歌山県民歌

西川好次郎／作詞  
山田 耕筈／作曲

Andante maestoso

ほのぼ のとかおるはま ゆう ひには ゆるみどりのき  
ふくわかやまはとこはるのくに ひとのわとぶんかをそ  
えて いやさらにのびよさか えよ ふるさと一  
は つ ねにほほ えむ えむ

2.なんご  
3.くろが

三、	二、	一、
ふいと和わ黒くく	ふい汗あ和わ野の南なん	ふい人ひと和わ陽ひほ
るやこ歌かろし	るやに歌かは	るやの歌かにの
さ更さし山まの	さ更ら明あ山ま稔の	さ更ら和わ山ま映はぼ
とにえはのね	とにけはり	とにとはゆの
はのしの	は	はると
伸の明あぶ軌み	伸の火ひ幸さち息いぶ	伸の文ふ常とみか
つび若わ日すき道ち	つび花なを街ま吹	つび化か春は緑ど
ねよさをはゆ	ねよに生うはた	ねよをのの
に栄かに呼よめく	に栄か暮くむお	に栄か添そ国に起
微ほえに乗のぶぐと	微ほえれ国くど	微ほええに起
笑えより国に	笑えよ	笑えよ
むて	む	む
る		浜はま 伏木 綿う

## 和歌山県民歌の誕生

戦後間もない昭和23年(1948年)、篤志家から「後世に残るものを何か考えてほしい」と和歌山フィルハーモニック・ソサイエティ委員長の竹中重雄氏が依頼を受けて、県民歌の作詞・作曲の一般公募を行い、同年8月に県民歌が誕生しました。作詞者は、小学校教諭の西川好次郎氏で、県内の市町歌や校歌を多く作られています。

作曲者は、「赤とんぼ」「この道」「からたちの花」で有名な山田耕筈氏です。作曲公募の中に優秀作品がなかったため、選者である氏自らが作曲を行いました。



QRコードから県民歌を聴いてみよう▶





<http://wakayama150.telewaka.tv/>

ホームページは右記QRコードからもアクセスできます



和歌山県 環境生活部 県民局 県民生活課

〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地 TEL.073-441-2345